

# SSKR まうんてんえこお

## NO.309

### 社会福祉法人 練馬

#### 本部

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9  
TEL(03)3998-5023 FAX(03)3998-5035  
<http://nerimayamabiko-hukushikai.jp/>

#### 山彦作業所(就労継続支援B型)

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9  
TEL(03)3998-5023 FAX(03)3998-5035  
Email: ymbk@mvi.biglobe.ne.jp

#### 山彦相談支援事業所(相談支援)

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9  
TEL&FAX(03)3970-2365  
Email: ymbksoudan@xqd.biglobe.ne.jp

#### やまびこ第二作業所(就労継続支援B型)

〒179-0081 東京都練馬区北町7-20-36  
TEL(03)3933-8935 FAX(03)5398-7681  
Email: ymbk2@mue.biglobe.ne.jp

#### やまびこ第二相談支援事業所(相談支援)

〒179-0081 東京都練馬区北町7-20-36  
TEL&FAX(03)6906-9803  
Email: ymbk2-soudan@xvd.biglobe.ne.jp

#### ワークショップ石神井(就労継続支援B型)

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4  
TEL(03)5923-9811 FAX(03)5923-9812  
Email: work@msd.biglobe.ne.jp

#### チャレンジワークやまびこ(就労移行支援)

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4  
TEL(03)5923-9864 FAX(03)5923-9865  
Email: c.w.ymbk@xvg.biglobe.ne.jp

#### ワークショップ石神井相談支援事業所(相談支援)

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4  
TEL(03)5923-9818 FAX(03)3997-3650  
Email: wkcs@kzh.biglobe.ne.jp

#### やまびこ三原荘(共同生活援助)

〒178-0063 東京都練馬区東大泉  
TEL(03)3978-6352 FAX(03)5935-6320  
Email: miharaso@mue.biglobe.ne.jp

### 目次

- 表紙 山彦作業所
- P2 法人本部 事業計画
- P3 山彦作業所 事業計画
- P4 やまびこ第二 事業計画
- P5 ワーク 事業計画
- P6 チャレンジワーク 事業計画
- P7 やまびこ三原荘 事業計画
- P8 相談支援事業所 事業計画
- P9 やまびこのペン(職員より)
- P10 やまびこのかぜ(三原荘)



## 山彦作業所 入所式

4月1日に山彦作業所に3名の  
新メンバーが加わりました。

山彦作業所のメンバー皆で一緒  
に頑張りましょう。



# 2022年度 法人事業計画

## 1 長期計画の策定について

中長期計画の策定はここ数年来の大きな課題でしたが、緊急性の高い課題が優先され、なかなか取り組みが進みませんでした。22年度は、より具体的な策定プランを示し、役員、職員とで共に取り組む体制を作ります。具体的には以下の五つの検討課題を基に計画案を考えていきます。

検討課題 運営理念の再検討 無認可時代からの基本理念を再確認していく。  
検討課題 運営ビジョン(ありたい姿)を考える。新規事業や地域との関係、職場環境改善等について検討していく。  
検討課題 中期運営方針 地域ニーズの把握、新規事業の検討。財務体質の強化等。  
検討課題 中期運営目標 年度までに何を達成するか。  
検討課題 取り組み分野 利用者支援、人材育成 規程等の見直し 財務  
取り組み体制として中長期計画策定委員会を組織し、22年度9月までに第1次案を出していきたいと思えます。また各年度の事業計画作成の指針となることを念頭に計画作りを進めます。

## 2 人材育成

22年度は人材の育成について以下の2点を主な課題として取り組みを進めていきたいと思えます。

### 職員研修

従来から職員研修については職員としての専門性の向上と虐待防止に関わる研修を中心に取り組んできましたが、事業継承という観点からの取り組みも大きな課題となってきました。このため経験年数に応じて視野を広められるような研修を取り入れていきます。練馬区福祉人材

育成研修センターでの研修を中心に受講を勧めていきます。

キャリアパスに応じた研修と待遇の具体化  
キャリアパスに応じた研修と待遇のあり方について、基本的枠組みは作ってきましたが、実際の運用が進まずここ数年経過してきています。今年度は資格の取得とそれに応じた待遇のあり方を具体化していきます。  
また22年2月から導入された福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金による職員への手当支給も進めていきます。

## 3 相談支援事業のあり方検討

21年度は区との協議を1回行いましたが、コロナの影響もあり十分な時間が取れずその後の進展がありませんでした。現在の3事業所の機能の統合化や共有化、様々な書式の統一等現行法の中で行える方策を考えていきます。また、現在相談支援専門員の資格者が4名しかおらず、今後の事業発展を考えると甚だ不安な状態です。そのため、経験を積んだ職員が資格取得できるように各職場で調整を進め、資格者の増員を図ります。

法的には3事業所は全く別な事業所として認可されていますが、そのような中でなるべく無理なく、無駄なく統合された事業ができるような方策を考えて行くとともに、各種加算の取得や研修を進めていきます。今後法的に統合化が可能なかどうかとも引き続き考えていきます。

## 4 山彦作業所、やまびこ第二作業所の場所問題

山彦作業所は買取の方向で話が進み、区との調整協議も具体化してきました。このため買取のための資金準備と買取後の改修が課題となつて

きます。改修については都の補助制度の活用が可能などうかを検討していきます。

やまびこ第二作業所については新施設の建設が進んでおり、そこを借りての事業のあり方を考えるとともに、スムーズな移転が行えるよう準備を進めていきます。

## 5 事業継続計画(BCP)の策定について

24年度からは福祉施設においても事業継続計画(BPC)の策定が義務づけられることになっています。今回のコロナ感染や、大震災、予期せぬ大災害等々の中で事業を継続していけるように法人全体として取り組みを進めていく必要があります。

BCPを策定することで、緊急時に優先して行うべき行動が明らかになり、職員の行動が利用者の命に関わる場所では、日頃から緊急時の対応を想定・訓練しておくことが重要となります。さらに、緊急時の対応は取引先にも大きく影響するため信用問題にもつながります。利用者や職員の命を守ることに加え、経営面での被害を最小限にとどめることにもつながります。

22年度はそのための基本的な方向性を定め、山彦福祉会として取り組み可能な計画案作りを進めていきます。

## 6 虐待防止研修について

22年度も引き続き法人独自の研修を企画し、実施していきます。前年度はコロナ禍で初めてオンラインでの研修となりましたが、今年度も実施のための委員会を組織し、職員の意識を高めるとともに職場内、法人内での風通しの良い職場を目指していきます。

# 山彦作業所 2022年度事業計画

## 2021年度概況

新型コロナウイルスの影響で時短での開所を継続しています。また、高齢の為別サービスへの移行と他県へ引っ越しの為3名が退所されました。

練馬区と協議を続けてきた建物問題ですが、買い取りの目途が立ち、具体化してきました。今後も今の場所で作業所活動が継続できる様に買い取り後の改修について検討していきます。

### ☆事業の課題と目標①

#### ■目標

- 働くことの社会参加と自立を支援し、社会性を育み社会の一員として視野を広げていきます

#### ■課題

- 現状の社会情勢の中で、生活活動の維持・継続をしていきます。

#### ■取り組み

- 利用者自身の力を引き出せる支援をします。
- 取引先との信頼関係の構築・向上への取り組みを行います。
- 作業体制の見直しを行い、スリム化へ取り組み、支援体制を手厚くします。

### ☆事業の課題と目標②

#### ■目標

#### ■課題

- 利用者自身の希望に寄り添った支援のあり方を考えていきます。

- 利用者のライフステージに合った課題を明確にしていきます。

- 利用者が望む夢に向かって作業所が寄り添えることを考えます。

#### ■取り組み

- 利用者や家族の思いを大切にしながらニーズをとらえていきます。
- 面談を行い必要に応じて関係機関と連携していきます。

### ☆事業の課題と目標③

#### ■目標

- 利用者・職員がともに山彦作業所で働くことに生きがいとやりがいを持つようになります。

#### ■課題

- 支援員という仕事の理解を深めるようにしていきます。

#### ■取り組み

- 個々の障害理解へのスキルアップのため、研修参加をします。
- 職員同士、積極的なコミュニケーションをとります。

### ☆事業の基本理念

- 山彦作業所は、障害者の働きたいという願いに応えます。

- 山彦作業所は、仕事を通じて利用者の物心ともに、豊かな地域生活を目指します。

- 山彦作業所は、地域福祉の充実を目指します。

### ☆事業概要

- 事業種別  
就労継続支援事業B型
- 主たる対象者  
知的障害者、精神障害者、身体障害者

・利用定員 30名

・職員構成

管理者 1名

(サービス管理責任者兼務)

職業指導員 1名

生活支援員 1名

目標工賃達成指導員 1名

非常勤 3名

栄養士 1名

調理員 4名

事務員 1名

### ☆事業計画（抜粋）

#### ■利用者支援

(1) 個別支援の充実

(2) 作業支援の充実

(3) 生活支援の充実

以上

# やまびこ第二作業所 2022年度事業計画

## ☆2021年度 概況

コロナ禍の影響で制約の多い生活を強いられ、生活や人間関係の問題を抱え込みやすく、気分転換が難しい状況がみられました。作業所においてもレクを中止していましたが、21年度はお楽しみ会を行うことができました。実行委員を中心に企画し、みんなの楽しそうな表情から、作業では得られない交流や気分転換が図れたのではないかと思います。

作業については、時短が続いていますが、徐々に作業時間を延長し、定着しています。激減緩和手当を今年度も支給しました。

建物の移転については、引き続き、練馬区と他2事業所と協議しながら進めています。

## ☆2022年度重点的取り組み

### 1. 支援の充実

コロナ感染防止対策を継続し、安心して通えるように努めます。コロナの影響により気分転換がしづらくストレス発散が難しい状況が続き、不調を訴える利用者が多くなっています。作業以外の取り組みとして、利用者同士の接点を増やし、お互いの理解に繋がるようなレクリエーションを企画していきます。また、健康課題を抱えている利用者も多く、健康へ関心が向かうよう働きかけ、企画を検討

していききたいと思えます。日頃の関わりや日常会話を大切にし、関係機関との連携を維持しながら、支援をしていききたいと思えます。

### 2. 作業支援の充実

引き続きコロナの感染状況に合わせて時間を調整しながら行います。受注した作業は丁寧・正確に取り組みます。

作業支援では、互いに関わり合うきっかけをつくり、協力することや他者への理解に繋がるような働きかけを行います。また、職員が行っていた部分を利用者の力を発揮する機会と捉え、より主体的に動き、自信に繋がるよう工夫して作業をすすめていきます。

個人で行う作業の他にグループで協力し合いながら行えるよう、工夫や配慮をします。互いに協力しあうことにより、相互に関わり合うきっかけをつくり、他者への理解につなげられたら、と考えています。

### 3. 建物移転に関して

引き続き、こぶし事業所さん、はじめのいっぽ春日町さん、練馬区との4者で協議しながら、秋の移転に向けて計画的にすすめていきます。

移転の際は、利用者の精神的な負担等に考慮し、通所に困難が生じないように配慮します。

## ☆事業概要

事業名 就労継続支援B型

主たる対象者 精神障害

利用定員 30名

職員体制

常勤 3名（施設長・支援員）

非常勤 3名（支援員） 現在募集中

## ☆事業理念

1. 障害のある人たちが、働く事を通して社会に参加し、自己実現を果たせるように支援します。

2. 地域の一員として豊かな人生を送ることができるよう支援します。

3. 働く場・生きがいの場を保障します。

## ☆事業計画（抜粋）

- ・個別支援計画の策定と個別面談
- ・健康診断の実施
- ・メンバーミーティングの実施
- ・関係機関との連携強化と維持
- ・週間作業予定表の掲示
- ・地域との関わり
- ・建物の移転に関して
- ・虐待防止について
- ・非常災害時の対応

以上

# ワークショップ石神井 2022年度事業計画

## ☆2021年度を振り返り

新型コロナウイルス禍によって受注作業が減り、工賃増とはなりませんでした。しかし、農福連携として練馬区内のブルーベリー農園の農作業は今年度も継続し、さらに練馬区共同受注の仕組みから新たに1件の新規作業「駄菓子詰め合わせ作業」を増やすことができました。また、練馬区自主製品販売会に2回参加するなど、自主製品販売の取り組みを増やすことができました。農作業、駄菓子詰め合わせ作業、自主製品作業は利用者のやりがいにつながり、これらの作業があることよって通所日数が増えた利用者が数名いました。

## ☆2022年度の重点課題

### 1、利用者の通所目的と生活課題に応える

- ① コロナ禍における支援
- ・ 2022年度も引き続き事業所全体として感染防止対策の徹底を継続します。
- ・ 利用者や職員が新型コロナウイルス感染対策を行うことにより、日ごろの衛生面や健康面の見直しを図る良い機会とします。
- ② 就職を希望する利用者や就職可能な利用者への支援
- ・ 練馬区障害者就労支援センター、チャレンジワークやまびこ等と連携して取り組みます。
- ③ 加齢で腰痛などからだの痛みが出ている利用者への支援
- ・ 毎日、体操と「鎌田式かかと落とし」を継続。また「練馬区出張健康づくりセミナー」

等を活用して健康に関する講座を開きます。

- ④ 家族と暮らしている利用者への支援
- ・ グループホームを知る機会を作ります。入居者の話しや見学会を設けます。

### 2、作業種を増やして工賃を増やす

- (1) 工賃について
- ① 工賃目標額 時給180円  
平均工賃月額10000円
- ② 工賃増額を目指します。特に新しく始めた作業が安定するように取り組みます。
- ③ 他事業所と連携し、共同で仕事を受注する仕組みづくりに参加します。

### (2) 作業種目

- ① ダイレクトメールの封入作業
- ② 線香組立作業
- ③ 農福連携事業
- ④ 駄菓子仕分け作業
- ⑤ 自主製品
- ⑥ 外勤作業

### (3) 作業編成

利用者個々人の能力や適性、得意分野を伸ばし、苦手分野を補えるように事業所全体で工夫します。

### 3、リスクマネジメント体制の強化

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策や大規模震災に備えた業務継続計画を策定します。また様々な場面を想定した災害訓練を実施し、災害に備えます。
- ・ 日ごろから同じ建物内のチャレンジワークやまびこことワークショップ石神井相談支援事業

業所職員との打ち合わせ時間を設けるなど、連携強化を図ります。

## ☆事業概要

事業所名 ワークショップ石神井（就労継続支援事業B型）  
主たる対象者 精神障害者  
定員 28名  
職員体制 常勤3名（施設長・支援員）  
非常勤3名（支援員）

## ☆基本理念

- ① 利用者の仲間と共に働きたい願いに応えます。
- ② 利用者の健康で豊かな生活をしたい願いに応えます。
- ③ 障害があっても安心して暮らせる街づくりを関係者と地域に方々とすすめます。

## ☆事業計画（抜粋）

- ・ 個別支援計画の策定
- ・ 個別面談
- ・ 家族・関係者との連携
- ・ 行事・レクへの参加
- ・ 利用相談
- ・ 苦情窓口
- ・ 非常災害時対応

以上

# チャレンジワークやまびこ 2022年度事業計画

## 2021年度の概況

一般就労等の状況は以下の通りです。

### ● 一般就労者 3名

（軽作業1名、清掃2名）

### ● 職場定着者 2名

（軽作業1名、清掃1名）

## 2022年度の 重点的な取り組み

### 1 集団プログラムの充実

メンバーの過半数が、利用期間6か月を満たず、導入期または訓練期の初期に位置しています。そのため昨年度後半には集団プログラムから個人プログラムに推移し、自己理解や関係性を築く期間に充てていきましたが、今年度は訓練期に差し掛かることで、職場をイメージした集団活動要素のあるプログラムの充実を図ります。

### 2 昨年度就労者の 6ヶ月以上勤務を目指す

昨年度の就労者3名が、就労先の労働環境や業務内容に順応し、長く働き続けられるように本人や家族からの状況聞き取り、就労先との調整など、多角的に支援します。

### 3 外部セミナー（学習会）の活用

事業所外での学習機会を活用し、就労意欲向上や客観的な視点の学びを得て、就労準備性の意識付を図ります。

公共機関が開催する外部セミナー（学習会）を始め、事業所外の活動体験から得る就労意欲やモチベーションの向上はその後の就労準備に大きく寄与します。また会場へ公共交通機関を利用するなど、その参加自体が重要な社会体験となります。

### 事業概要

- ・ 事業名 就労移行支援事業
- ・ 主たる対象者 知的障害、精神障害
- ・ 利用定員 6名
- ・ 職員体制  
管理者 1名  
（サービス管理責任者の兼務）  
常勤支援員 2名  
（職業指導員 1名  
（就労支援員 1名  
非常勤支援員 1名（生活支援員）

### 事業の基本方針

- ・ 利用者の働き続けたい想いをサポートします。
- ・ チャレンジという言葉通り失敗も含めた様々な体験を通して学び就労を目指します。
- ・ 本人の目的とペースに合わせたプログラムを提供します。

・ 福祉就労とは違い、一般企業に貢献できる社員として就職できることを目指します。

### 事業計画（抜粋）

#### 就労移行支援の内容

- (1) 生活支援
- (2) 就職支援
- (3) 就労実習
- (4) 定着支援

#### 段階に応じた支援方針と体制

導入期、訓練期、移行期、定着期に区切り、個々の能力や段階に合わせて個別支援計画を作成し支援する。

#### 苦情解決

別途定める「苦情解決マニュアル」に則り、利用者側の立場に立って誠実に対応する。苦情受付担当者、苦情解決責任者、第三者委員の氏名と連絡先、相談方法をわかりやすいたちで事業所内に掲示する。

#### 虐待防止

別途定める「虐待防止マニュアル」に則り、利用者の人権を最大限に尊重し、適切な事業運営を行う。

#### 危機管理

別途定める「危機管理マニュアル」に則り、利用者や職員等の生命を第一に考えた施設管理を行う。

以上

# やまびこ三原荘 2022年度事業計画

## ☆2021年度の概況

- 入居者  
 退居↓5・9・3月に男性3名、8・12月に女性2名の通過型の計5名。  
 入居↓12月に女性1名、3月に男性2名の計3名。入居前の住居は、家族との同居1名と精神科病院（入院）2名。  
 年度末で在籍が15名。

- 職員体制  
 退職↓9・1月に非常勤職員2名。  
 採用↓11月に非常勤職員1名。  
 （内1名は法人の常勤職員に）

## ☆2022年度の重点的な取り組み

- 入居者支援の充実
  - ・入居者の健康維持や生活能力の向上を図ります。そうじ、入浴、着替えなどの清潔保持などの支援を充実します。
  - ・高齢の入居者については、日中活動の在り方について検討します。
  - ・入居者の居室への訪問の機会を増やし、状況の把握とそれに応じた支援をすすめていきます。
  - ・通過型の入居者に対して、入居期限後の生活に向けた支援を計画的に行っていきます。

- 業務内容の整理、明確化  
 ・支援マニュアル等の整備を行うことにより、業務内容や責任制、非常時の対応など明確化します。

- 危機管理体制の確立  
 ・災害や感染症など、危機管理体制を見直し、確立します。

## ☆事業概要

- ・事業名 共同生活援助  
 （グループホーム）
- ・主たる対象者 精神障害

入居定員	1階 男性2名（滞在型）	2階 女性4名（通過型）	3階 男性4名（通過型）
サテライト	1DK 4室 4名（滞在型）	2DK 1室 2名（滞在型）	2DK 1室 1名（滞在型）

- ・職員体制  
 常勤世話人・3名  
 （うち1名、管理者とサービスマン管理責任者の兼務）  
 非常勤世話人・5名  
 顧問医 1名  
 夜間体制 宿直週4回（月〜木）

## ☆事業の基本方針

- （1）入居者の生活の安定を図り、健康の維持増進と生活の質の向上を目指します。
- （2）入居者同士が良好な関係を築いていけるように支援し、交流を図ります。
- （3）安心して快適に暮らせる住環境を提供します。
- （4）関係機関と連携し、地域福祉の向上に資する活動を行います。

## ☆事業計画（抜粋）

- ※定期面談 6ヶ月ごと
- ※ミーティング 月1回
- ※レクリエーション 年2〜3回
- ※食事提供
  - 夕食・・・火・木
  - 朝食・・・火・木・金
  - 昼食づくり・・・土

※新型コロナウイルスの感染拡大による「緊急事態宣言」の発令や、「まん延防止等重点措置」等適用の状況をみながら形態を柔軟に変えるなど、感染防止対策を取ります。

以上

## 相談支援事業所 2022年度事業計画

### ■山彦相談支援事業所

#### 2022年度課題と目標

2021年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、計画案の作成に関しては直接の面談によらず、文書と電話のやりとりで作成する例が何例か続きました。モニタリングの件数も前年度よりは増えましたが、家庭訪問や事業所訪問は制約が多く、内容的には不十分なものになってしまいました。特に在宅で单身の方の場合生活状況の把握が困難な状況が続いています。

2022年度は特に次の3点について取り組みを進めていきたいと思えます。

1 モニタリングの実施とその情報整理、共有化に向けた活用を図ります。

2021年1月に行われた練馬区検査指導においてモニタリングの不実施が文書指摘を受けることになり、その実施が求められました。このための業務時間の振り分けや計画的業務遂行を図ってきました。2022年度はさらに頻度を増やすとともに、記録の整理と、関係機関との共有化を進めていきます。

2 3事業所の業務遂行の手順や文書書式との整備を図ります。

3 相談支援事業所間での連携や業務振り分け等の整備を進めてきていますが、具体化が遅れています。相談支援員の専門性を向上させることや時間の無駄を省き、相談支援本来の時間を確保するために3事業所での連携強化や業務システムの統一化を図っていきます。文書書式やその整理等について整備を進めていきます。

3 相談支援事業所の今後について

相談支援事業の今後のあり方を考える話し合いがコロナの影響もあり、時間確保が難しいのが現状です。本年度は限られた時間の中で現状と課題の整理を進め、将来についての議論を深めていきます。

### ■やまびこ第二相談支援事業所

利用者・家族への感染が拡大している状況が続いています。21年度事業所や保健相談所・福祉事務所と連携をとりながら対応をしているのですが、「ヘルパー事業所が廃止となった」「在宅期間が長くなり家族との衝突が増えている」「外出が減り肥満傾向に拍車がかかった」等々と、コロナ禍特有の課題も増えてきています。

これらの活動に対応できるようにとの思いを持ちながら、22年度の事業計画を策定しました。

①利用者・家族の思いを大切に計画作成に力を入れる。

②コロナ禍で孤立しないよう、連絡をこまめに入れていく。

③関係者とのネットワークを強く広く持つようにする。

④訪問・面談等には感染防止の意識を強くもち徹底していく。

⑤相談3所の協力・連携を広げていく。

⑥併設しているやまびこ第二作業所との連携を強化していきます。

この6つを柱としていきます。これらは通年通りなのですが、例年以上に大切にしていきたいと考えています。これらの活動を支えるのは、経験

と情報の蓄積が何よりも求められるために、資料の整理、効率化等を意識的に行っていきます。

### ■ワークショップ

#### 石神井相談支援事業所

利用者や家族が抱える問題は福祉サービスに関する事だけでなく、金銭・異性・資産など生活全般にわたっています。

当相談支援事業所は、一人職場で相談するスタッフがなく、自身の知識では利用者や家族の意向に沿った支援や問題を解決することに限界があるため、他の支援者の力を借りたり、他の支援機関に繋げる必要があります。また、利用者と家族間で意向が違うこともあり、福祉サービス利用について家族間で検討してもらうためには福祉サービスや制度について利用者や家族にしっかりと理解して頂ける説明ができなければなりません。

これまでの様々な支援を通して22年度の主な取り組みを次のように掲げます。

#### ★2022年度 目標

①他職種の関係機関と連携を強化します。

②利用者が置かれている環境や意向を把握し、状況にあったサービスや制度の情報提供を行います。

③正確な情報を伝えるためにサービスや制度に関する知識を高めます。

④高齢の利用者への対応について、利用できる資源の情報収集を行いながら、介護保険サービス以外の利用を模索します。

⑤一人職場の問題解決に向けて体制を整えます。

# やまびこのペン

「春は名のみの風の寒さや」

池田潤

数年前の大寒の日、故郷の母が亡くなった。当日は大雪の日だった。駆けつけた姉、兄、私を前にして、父は「通夜と告別式にはお坊さんには呼ばない。これは故人の遺志だから、これで行くぞ。良いか?」と切り出した。念のため姉が「大丈夫なの?今後の寺との付き合いや納骨の問題はないの?」と確認すると、父は笑顔で「何でもなるだろう。寺に納骨を許さねなかつたら、お前ら(兄と私)が闇夜に墓地に忍び込んで、雪を掘って墓に入れてこい。入れたものまで出せとは言わないだろう」。そして「必要ならお経はおしが読む。それ以上があるか?」とも言った。

母には昔の苦い経験があり、お寺やお坊さんの権威的なところが大嫌いだっただけ、いつも「私が死んだら、お坊さんはいらない。そのお金でみなぎり馳走でも食べて」と言っていた(あくまで母個人の感想)。そのことは家族全員が知っていたし、父はその母の思いを「」まで通じたいとこだわった。

以前から父は万事こたえ調子で、今までもそれなりにトラブルもあったのだが、

母や私たち3人は、父のその言いつろが大好きだった。両親からは「」あるべき」「」しないといけない」的言いつろはほとんどそれたことがなく、世間体や常識よりも、いつも気持ちやその理由を大切にしてくれた。

もちろん姉や兄、私は手を叩いて「よしよし、そつ来なくっちゃ」「空いた時間の代わりになにやるの?」「と、姉を中心にイベントの実行委員会の雰囲気となり、通夜と告別式の予定を考えた。父にとって、3人全員が笑って賛成したことが大きな支えになったと思う。父が一番大切にしたいものが、まされもなく「母の願い」である以上、私たちに反対する理由はなかつたし、寺には丸となって闘っただけであった。それは亡くなった母を感じ続けることでもあった。父が「ありがとかな、お前達の親で良かったなあ...」と何度も言っていたのを覚えている。

来て下さる方に失礼がないように、あれれ話し合い、最終的には、父の挨拶、母の紹介、お焼香、その間は明るい唱歌を流して、最後は全員での合唱、とプログラムを組んだ。母は学生の頃に合唱部に所属していて、昔から動機唱歌が好きだったこともあり、みんな、母の好きだった歌を唱じよつとあった。

驚き、慌てたのは親戚や葬儀場で、

「本当に良いんですか?」「...いくら何でもお坊さんがいないなんて...」等々と心配もしてくれた。葬儀場にしても寺との関係もあるのだろう。ただ「故人の遺志」とい言葉の威力は絶大で、予定通りの通夜と告別式をやり通した。雪深い田舎のこと、相当な強風の強さでの強行突破だったように思う。父は冒頭でお焼香に来て下さった方に「このような形でやるに至った経緯や主旨を話して、不快思われたら申し訳ないこと、そして故人の遺志に添うことを家族で決めたこと、本日の予定等を、何も読まずに世間話のようにサラッと話した。父の言い聞きの訂正は3人笑いかかちやうた。

合唱に選んだ曲は「早春賦」「故郷」等、大雪警報が発せられていたその日の通夜は、見る見る雪が積もっていった。来られた方々も、大雪のために足止めされて会場からは出るに止らなくなっていく。結果としてお通夜は大宴をこなした。用意した食事やお酒、そして部屋もなくなり、大雪の中で近所のコンビニに買い出しに行くチームまで出てくるようになったりかじりだつた。葬儀場も「こんなことは初めてです...」と大慌てで対応してくれた。母の願い通りに、みなぎり馳走を食べることが出来た。大雪は母がらのお礼のついでと思えた。

翌日以降、お寺を闘つていようとしたが、

父の作った懇話会チリオと3人の知恵・役割・演技で、無難に乗り切ることができた。「」のような話になるが、これ以上は触れずにおきます。

数日経つ、私が帰る日、故郷は猛吹雪だった。駅で私の前を歩く父の後ろ姿を見た時、その時が私には一番辛く震えて声が出なくなつた。一緒に暮らしていた家族が、今は各々別々に暮らしているが、家族のつながりは母が亡くなってなお一層強くなつた。と言つよりも、悲しみを乗り越えるために強くなざるを得なかつたように思う。最初のハードルが「母の願い」をやつするかだった。母も押しつけが大嫌いな、そつ言入らだつた。その「母の願い」は、みんなが叶えた。私の相手(妻)は笑いながら「とても素敵なお通夜と告別式だったよ。あなたの家らしいねえ」と言ってくれた。

今も、通夜で歌った「早春賦」の冒頭「春は名のみの、風の寒さや」の出だしを聞くと、あのよつた通夜と告別式をやり通した父、私たちの思いや覚悟を思い出す。

私の中で「早春賦」は心擦歌になった。



# やまびこのかぜ

グループホームでの生活について  
やまびこ三原荘 おやつ大好きさん♡(女性)

私は2018年の9月にやまびこ三原荘へ入居しました。以前の私は母親をガンで亡くし、訪問看護とヘルパーに支えてもらいながら大泉学園で5年ほど1人暮らしをしていました。アパートの入居者に物音を立てて迷惑をかけたので退去となり、その後、他区の更生施設で1年半ほど生活をしていました。入居期限が来たため、福祉事務所のワーカーさんがグループホーム(以下:GH)を紹介してくれました。やまびこ三原荘を見学したときの印象は、明るそうで雰囲気よかったです。ここなら暮らせそうだと思います、入居を申し込みました。試泊が決まり、1泊2日の体験利用をしました。不安と緊張で当時のことはあまり覚えていません。試泊の夜に調子を崩して、盗難にあったと勘違いし、三原荘の部屋から110番通報をしたら、警察の人に「明日にして下さい」と言われました。

2回目の体験利用は2泊3日で、その後無事に入居が決まりました。やまびこ三原荘での生活がスタートしました。生活環境が変わり、そわそわしてしばらくは落ち着きませんでした。半年ほど経つと生活に慣れてきました。

入居間もない頃に、黄色いお気に入りのコートを保ールペンで汚してしまい、クリーニン

グに出しても落ちないので泣きたくなりまし  
た。それを見かねた世話人さんが汚れの部分  
を縫って隠してくれました。世話人さんの支  
えに温かいぬくもりを感じました。一緒に外  
食に行けたことも嬉しかったです。食事サー  
ビスや誕生会などで、みんなで食事をしたり、  
ケーキを食べてお祝いをする時間は大切でし  
た。ユニットの入居者同士でおしゃべりがで  
きたこともよかったです。

毎週金曜日は世話人さんにマンツーマンで  
調理を教えてもらいました。冷やし中華、ホッ  
トケーキ、ホットサンド、インスタントライ  
メンと一緒に作りました。ごちそうが作れた  
瞬間はとても嬉しかったです。美味しかったで  
す。また、世話人さんが脳トレ、計算、ぬり  
絵を用意してくれて取り組んだこともよい思  
い出になっています。

日中の活動は、「生活支援センターういん  
ぐ」で掃除(キレイにし隊)に参加したり、  
石神井のチエルココ祭り(子ども祭り)の手  
伝いをしました。コロナ禍になると、ういん  
ぐへは通えなくなり、近場の「生活支援セン  
ターさくら」のオープンスペースを利用して  
いました。プログラムが激減して寂しい時期  
になりました。近所の地域集会所で絵手紙教  
室があることを知り、時々参加しました。

ホーム内のレクリエーションで特に思い出  
に残っているのが、夢庵での「しゃぶしゃぶ  
食べ放題」です。みんなで鍋を突いて好きな  
物を食べて、楽しかったです。GHは、「家  
族」みたいなところがあり、私は大好きです。

大泉は、中学時代から住み慣れた街ですし、  
母親との思い出もたくさんあります。大泉学  
園のやまびこ三原荘でも共同生活ができて、  
大泉は大好きな街です。

通過型の期限の3年を迎え、昨年12月に他  
の滞在型のGHに決まりました。この街を出  
て行くのは寂しい感じがします。正直、三原  
荘を出て行くのは嫌です。次の生活場所でも  
安心できる生活を取り戻したいです。

**\* 退去後、数回挨拶に来られ、お元気に生活  
されていらっしやるとのことです。**

## 国会請願行動中間報告

4月末までに  
練馬山彦福祉会全体で

署名: 1,890筆

募金: 88,029円

**集まりました。  
ご協力ありがとうございました。  
最終報告は追ってお知らせ  
いたします。**

## 編集委員より

新緑のまがくしい季節になりました。  
庭の植木がぐんぐん伸びて、手入れ  
に追われていますが、「これも平和な  
国で暮らしているからできることか  
とふと思います。  
ウクライナをはじめとする戦時下の  
街へ、早く緑が戻ることを心から願っ  
ています。(渡辺)

編集人  
社会福祉法人練馬山彦福祉会  
東京都練馬区富士見台2-19-9  
TEL(03)3998-5023

発行  
障害者定期刊行物協会  
東京都世田谷区田原3-1-17  
ヴェルトウーラ102号室  
頒価 20円